

---

# ドリームシャワー

オオハタ ユウキ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ドリームシャワー

### 【Nコード】

N4198N

### 【作者名】

オオハタ ユウキ

### 【あらすじ】

夢から逃げろ！ 逃げ続けるんだ！

## (前書き)

個人的にはダメダメな作品のような気がします。初稿を間違っ  
て消しちゃって、書きなおしたんだけど、こういう感じではなかつ  
た。

よく金縛りに合う、と言うと大抵の人が聞いて驚くのだけれど、本当のことだ。嘘だと言われる事もあるけれど、僕は今まで一度足りともこの件について嘘を付いたり大げさに言った事は無い。「実は」などという言葉を付けると大事だと捉えかねないので、さりげなく「よく金縛りに合うんだよね」と言うように心がけている。

その時に何か霊的なものが見えるといった類の事は一切無いので、単なる体の疲れだと捉えているけれど、何度も合うと正直嫌になる。それについて調べたりもしたんだけど、結局原因は何も分からず仕舞い。深夜を回ってから寝ると起こるので、体の疲れなんだろう。

金縛りに合う事が直接関係あるかどうかはわからないけれど、僕にはもう一つ人に驚かれるものを持っている。夢の中を自由に行動できるんだ。今は夢の中にいるという事は理解できるし、夢だから何をしても良いんだという考えもある。

その日僕は、買ったばかりの本に夢中になってしまい、つい夜更かしをしてしまった。半ば諦めながら眠りの世界へ……。

ぼんやりとした生ぬるい思考が大きな球体になり、一気にはじけ飛んだ。僕はそれを夢の世界へのダイヴと呼んでいる。過去に今まで見てきた風景が高速で飛んでいく中をゆっくりと進みながら、どろりとした空間へと侵入する。

夢の世界での僕は、何者かから逃げ続けていた。部屋へ追い込まれながらも逃げ、次の瞬間には風景は代わり、修学旅行のバスの椅子の上で震え、また風景は変わり、授業中廊下を徘徊する何者かに怯えていた。かすかに何者かの姿が見えてくる。男のようだ。身長は二メートルをゆうに超え、なぜか胸の肉がごっそりと削げ落ち、

肋骨が見えている。血は一切流れてはいない。腕と足は骨と皮だけで……どうやら右腕が無い。右腕の肘から下がぶつ切れて、骨が見えている。口は耳まで裂けて歯と歯茎がその隙間から見えている。こんなの、現実の世界にいたらただの化け物だ。僕はその化け物から逃げ続けていた。

夢の世界には音は一切無い。僕以外に人のような存在はあるけれど、それが人か人形なのかはわからない。化け物は僕以外を追いかける事は無いようで、僕以外の人に化け物は見えていないようだ。

僕は外灯の明かりだけの夜道を、息を切らせながら走っていた。ここは僕の家近所だ。途中道は二手に別れていて、僕が「右」と念じると体は右の道へと入っていく。化け物の細く長い腕が僕の髪の毛を掠めながら、次の瞬間風景は家の中へと変わっていく。両親のような存在が生まれたばかりの僕を囲みながら微笑んでいる。それをのんびりと眺める時間は無い。扉を蹴破りながら化け物が家へと侵入してきた。

「捕まったら終わりだから」

突然脳裏に声が浮かんた。声は僕の両手から形になって放出され、目の前に石ころのように転がり落ちた。「らかだりわ終らたつま捕」「終わりだから捕まったら」動き続ける言葉を交わしながら川沿いを走っていると、川の中を浮き輪を付けて泳いでいる小学生時代の僕がいた。

「本当は海に行きたかったのに」

「川で十分でしょう」

「海はまた今度にすればいいじゃないか」

風景がまるでビデオの巻き戻しのように戻される中を、僕は必死で化物から逃げ続けていた。風景は巻き戻るが体は前に進んでいく。目の前に広がる海へ飛び込むと、小さな粒が大きな球体になって、衝撃と共に夢から覚めた。

夢から覚めたものの、当然のように僕の体は動かない。今現在は夢の世界では無いという確信があった。思い切り首に力を入れて右へ向くと、薄暗い部屋の中に化物が僕を見下ろすように立っている、

(後書き)

ありがとうございました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4198n/>

---

ドリームシャワー

2010年10月9日17時25分発行